

Special Feature

ゴールデンカムイ展

GOLDEN KAMUY SPECIAL EXHIBITION

今号の巻頭特集は、今年4月28日発売の「週刊ヤングジャンプ」(集英社)で最終回(第314話)を迎え、約8年の歴史に幕を下ろした人気漫画『ゴールデンカムイ』(著:野田サトル)の連載完結記念「ゴールデンカムイ展」を紹介。会期は4月28日(木)～6月26日(日)、会場は東京ドームシティ Gallery AaMo (ギャラリー アーモ)。本誌編集長が5月の月曜日の午後にこの「ゴールデンカムイ展」に潜入した!

(取材・文: The Walker's 加瀬正之)



「ゴールデンカムイ展」キービジュアル ©野田サトル/集英社

『ゴールデンカムイ』とは

時代は、激動の明治末期。日露戦争という死線を潜り抜けた元兵士・杉元は、想いを寄せた人のために大金を欲していた。一攫千金を目指しゴールドラッシュに沸いた北海道へ足を踏み入れた杉元を待っていたのは、網走監獄の死刑囚が隠した莫大な埋蔵金への手掛かりだった！ 純真無垢なアイヌの少女と出会った杉元は、ともに黄金を求めて旅をするが……！ TV アニメ第3期まで放送、2022年10月から第4期が放送。実写映画化も決定。

主な受賞歴

「コミックナタリー大賞 2015」第2位

「このマンガがすごい！ 2016 オトコ編」（宝島社）第2位

「マンガ大賞 2016」第1位

「第2回北海道ゆかりの本大賞コミック部門」大賞

「第22回手塚治虫文化賞」マンガ大賞

「第24回文化庁メディア芸術祭マンガ部門」ソーシャル・インパクト賞

大英博物館「The Citi exhibition マンガ」展（2019）キービジュアル

「第51回日本漫画家協会賞 コミック部門」大賞

作者プロフィール

野田サトル（のだ・さとる）

北海道北広島出身。2003年デビュー。2011年から2012年にかけて「週刊ヤングジャンプ」で『スピナマラダ！』（全6巻）を連載。2014年より同誌で連載中の『ゴールデンカムイ』は最新コミックス29巻でシリーズ累計発行部数2000万部超。（※2022年5月時点）

「ゴールデンカムイ展」潜入

会場は東京ドームシティ Gallery AaMo。月曜日の午後早い時間帯であったが、会場の外には既に長い列が出来ており、その光景からも『ゴールデンカムイ』の熱い人気振りを目の当たりにした。会場に入るまでに並んだのは30分程で、それほど長くは感じなかったが、列には若い女性の姿が目立った。来場者特典として、曜日替わりで野田サトル氏描きおろしのミニ色紙が贈呈され嬉しい限りだが、この日は月曜日。鯉登音之進のミニ色紙をゲットできる日であったことも、若い女性が多かった一つの要因かもしれない。以下がラインナップだが、全てゲットしてコンプリートしたいファンも多いだろう。

（すべて©野田サトル／集英社）



（月）
鯉登音之進



（火）
鶴見篤四郎



（水）
月島基



（木）
白石由竹



（金）
尾形百之助



（土）
アシリパ



（日）
杉元佐一 & アシリパ

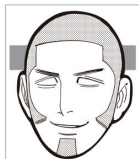
入口には、野田サトル氏が本展のために描きおろした杉元佐一とアシリパのイラストを使用したキービジュアルがドーンと大きく掲示されており、そのキービジュアルを背景に撮影するファンの姿も目立った。事前には会場には120点を超えるイラストの他、作中に登場した民具などの関連資料が多数展示されることや会期中には本展公式ショップで90点を超える貴重なオリジナルグッズも購入できることは把握していたが、コロナ禍から久しぶりの大規模なイベントでもあったため、否が応でも気持ちが高揚していたファンも多かっただろう。また、会期中の毎週火曜日 15:00以降の来場者には鶴見中尉または鯉登少尉のお面をランダムに、毎週木曜日 15:00以降の来場者には「脱獄王 白石由竹」のお面をプレゼントする「鶴見中尉ナイト」「脱獄王 白石由竹ナイト」も開催している。



「鶴見中尉ナイト」配付お面（配付はランダムになります）



「脱獄王 白石由竹ナイト」配付お面



すべて©野田サトル／集英社
※画像はイメージです。

受付で鯉登音之進のミニ色紙をゲットした後に、<第1ゾーン 金塊争奪戦の開幕>から会場に足を踏み入れた。

第1ゾーン 金塊争奪戦の開幕

金塊争奪戦に参加した主要キャラクターが一堂に集結。その肖像を写すグラフィックや名シーンの数々、モデルとなった実物資料で、彼らの生きた証を辿る。



第2ゾーン 24人の刺青囚人

金塊の在り処を示す暗号の刺青。その刺青が彫られた24人の囚人たちを、網走監獄内をイメージした空間で紹介。彼らの圧倒的な個性におののくこと必至。



第3ゾーン 命を繋ぐものたち

北の大地に息づく暮らし、食事、歴史背景。金塊を巡る旅の中で登場した多様な文化を資料と一緒に紹介する、生命の彩りあふれるゾーン。



第4ゾーン それぞれの役目

作中での大きな戦い3つを、時系列順に並べられたイラストで追う。杉元やアシリパ、土方一派、鶴見中尉率いる第七師団。金塊を求めて戦う者たちの“役目”に触れる！



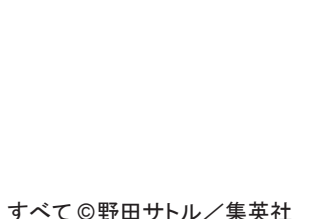
第5ゾーン 黄金色名画廊

物語の始まりから今までを飾ったカラーイラストたち。厳選された50点以上ものイラストが様々なサイズで縦横無尽に並び、壁一面を色鮮やかに覆う。



第6ゾーン そして未来へ

物語終盤の怒涛の展開を緊迫したシーンの数々で追うほか、野田サトル氏の描きおろしイラストを複数展示。



すべて©野田サトル／集英社

本展でしか見ることができない野田氏の資料や、各地博物館からの民具資料も多数展示！「第4ゾーン それぞれの役目」「第5ゾーン 黄金色名画廊」では、それぞれお目当てのキャラクターに夢中になるファンのトキメキが溢れていた。一部を除いて、携帯電話・スマートフォン・タブレットでのみ撮影可能なため、熱心に撮影する来場者も各所で見受けられた。



杉元佐一の軍帽

すべて野田サトル氏所蔵



アシリパのマキリ

※展示品は作中に登場したもののモデルとなった資料です。



鶴見篤四郎の軍服

【本展公式ショップ】

本誌編集長も購入した「ゴールデンカムイ展 公式図録」（税込2,500円）もお勧めです！120点を超えるイラストのほか、作中に登場した関連資料なども掲載。展覧会のための描きおろしイラストや野田サトル氏の特別インタビューや寄稿、開けてからのお楽しみの“初出し発掘グラビアの袋とじ”も必見！食品・菓子では「どうぶつクッキー」などもとても興味深い！

最後に、『ゴールデンカムイ』と本誌の僅かな接点について触れさせて欲しい。

【鯉登音之進（コイトオトノシン）】

第七師団所属の少尉。海軍将校を父に持つが、少年時代に誘拐されたところを鶴見に救出されたことをきっかけに、本人の意思で陸軍に入る。純で一本気な薩摩隼人。軽業師を感動させるほどの身体能力の高さを持ち、たゆまぬ鍛錬に裏打ちされた自顕流の剣術の腕を、自身が信じるものために振るう。

鯉登少尉こと、鯉登音之進は原作漫画では10巻第98話で初登場する。鶴見中尉を崇拝し、常に彼の写真を肌身離さず携帯している。また、レ点のような太い眉頭が特徴で端正な顔立ちと、興奮すると自顕流独特の「キエエッ!!」と猿叫したり、早口の薩摩弁になってしまう個性の持ち主。

鯉登少尉の過去が描かれている「音之進の三輪車」（第198話）も鯉登少尉ファンの間では神回の一つ。また、連載完結後、ネットでは実物の陸軍軍人がモデルだったのではと騒ついていたが、何を隠そう、本誌編集長の本名は「鯉登正之」と申します。鯉登少尉と名前が3文字被る点は奇跡ですが、見た目は全く別人なので残念です…。

尚、4月19日に発売されたコミックス29巻の表紙は鯉登音之進です！

「ゴールデンカムイ展」は『ゴールデンカムイ』の世界を存分に体感できる貴重な展覧会で、『ゴールデンカムイ』ファンには堪らないイベント。東京会場以外にも、京都会場と福岡会場でも開催されるのでお見逃しなく！

【東京会場】

会期：2022年4月28日（木）～6月26日（日）

※会期中無休

開館時間：平日：10:00～20:00 土日：11:00～20:00（いずれも最終入館は閉館30分前）

会場：東京ドームシティ Gallery AaMo（ギャラリー アーモ）

東京都文京区後楽 1-3-61

【京都会場】

会期：2022年7月9日（土）～9月11日（日）

休館日：月曜日（ただし7月18日は開館）、7月19日（火）

開室時間：10:00～18:00 金曜日は19:30まで（入場はそれぞれ30分前まで）

会場：京都文化博物館（京都市中京区三条高倉）

【福岡会場】

会期：2022年10月15日（土）～11月27日（日）

休館日：水曜日 ※11月23日（水・祝）は開館し、翌24日（木）が休館

開室時間：9:30～18:00 ※金曜・土曜日は20:00まで（入場は閉室30分前まで）

会場：福岡アジア美術館 企画ギャラリー A・B・C（福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル7階）

【ゴールデンカムイ展 公式サイト】

<https://goldenkamuy-ex.com>